

## 私と長女の二人三脚

私は、長女が幼稚園の頃より「普通の子」とは違うという悩みを持っていました。「普通の子」という定義が大変難しくあいまいで、デリケートなものであることは分かります。私も言葉で説明をしてくださと言われても出来ません。私の感じる「普通の子」との違いは本当に感覚的なものですが、間違いのない違いだと確信しています。比べる対象は、彼女の同級生と妹二人です。彼女は幸いにも幼稚園の頃よりプライベートでお付き合いをしているグループがあります。母親同士の付き合いから子供も一緒に常に行動していたので、彼女自身の特別な親友という関係ではないのですが、切れることのないいい形の、幼なじみに近い関係の友人たちです。男の子と女の子と5人が節目ごとの食事会や、映画、お出かけに親と一緒に行動していました。東京を離れた2家族も合わせると子供7人のグループです。

私は、長女が小学校1年生の頃より、この「普通の子」とは違うという部分で、自らお願いをしてスクールカウンセラーや小児科医の先生に長くご相談をしてきました。小児科医の先生は、病気だけではなく「こころの相談医」という立場で相談に乗っていただきました。最初は、私の感じる「違い」を解決したくてスクールカウンセラーに通いました。当初は、注意欠陥とアスペルガーを疑いました。今は、注意欠陥に関しては素因があることを確信していますが、アスペルガーではないと確信しています。これらの問題を解決する方法を教えてもらえろと思ひ、通い始めたカウンセリングでしたが、スクールカウンセラーや小児科医の先生は問題を「解決」するために私と話をするわけではなく、私と長女の間を客観的に見続け、また何かがあったときは我々がいますという私へのサポートだったのだと気が付きました。もし、病気としての問題が重大であれば大学や専門医を紹介してくれることも私に伝えてくれましたが、私から見ても注意欠陥の「素因」はあると思ひましたが、治療を必要とするような確実な診断がつくほどではないと自分なりに結論がでました。

誰にも、将来どのような人間になるかといったことは断言できないし、保証も出来ないわけで、今「違い」があるからダメな子になるわけでもないわけです。有名な芸術家や科学者などは子供の頃「変人」と呼ばれた人もいれば、アスペルガーやADHDだった人もいます。私は、長女に対してもう一つ感じているものが、「大人になってからつじつまが合う」子供だろうということでした。自分で言いながら、実は意味がわからないのですが、感覚としてこんな言葉が出てきてしまうのです。将来「子供の頃は、変わった子供だったのよ」と必ず言うときが来るような気がしています。そして、それは彼女がずっと想像を超えたことを成し遂げるような予感があるからです。私が彼女の「違い」に悩みながらも、将来を心配していないのは、彼女には非常に優れた能力があるからです。彼女の手の器用さや、絵の上手なところ、また細かいですが設計図を読むのが得意なところなどは平均よりも秀でていていると思っています。そして彼女にははっきりとした将来の夢があります。彼女が自分の能力を見間違えないよう、自分の為に努力ができるよう導くのは私の役目だと思っています。私は、彼女に「違い」については隠していません。彼女の「違い」の多くは、他人との関係の中にあります。自分の世界を持っている彼女は、時に周囲を忘れてしまいます。彼女のその部分が、他人の目から見てどう感じるのかもはっきりと伝えていきます。傷つくようなことも時には言いますし、言い過ぎることもあります。言い過ぎたことは私が謝ります。親といえども完璧な人間ではないし、何もかも彼女より正しい訳ではないということも教えて、人間関係の理不尽さも難しさも教えています。幸い、彼女は他人との付き合いが全くできないわけではなく、友達もいますし比較的上手に関係を築けていることがわかっています。それだけで、彼女がアスペルガーでは無いことを確信できました。

ここで、枝分かれをした悩みをお話します。私の中で彼女の欠点も長所も一つの大きな地図の中でまとまりました。しかし、長女に習い事をさせるときは非常に悩みます。始める前に、私が彼女を受け止めてくれる先生を探します。彼女は、言葉遣いも丁寧ですし、比較的学力もありますので何かを習わせるときは一見問題がありません。彼女の問題点を習い事を始める前に先生に伝えます。殆どの場合「大丈夫ですよ。すごく良く出来ますし、いい子です。」というのが数回レッスンを終えたあとの先生たちの言葉です。それでも、「自分の世界に入っていないか？ 自分の言いたいことを人の話を聞かずに話し始めませんか？ まわりに気を使っています

か？」とつい聞いてしまいます。 親が感じているほど、他の人には気になることではないのですが、彼女の問題点が見えたときに第三者から「今は話を聞くときだよ」「今は集中して」「他の子もいるんだよ」という注意をしてもらえるとすごくうれしいのです。 普段私から注意を受けていることですが、リアルタイムに第三者に注意を受けると彼女の意識がずっと変わると思っています。 そういった経験を通して自分の対応を、時と場合に合わせて変えていくことが出来ると思っています。 彼女のような子供は、家庭での指導だけではなく、家庭外（親以外）からの上手な刺激と経験でよりよい結果を導けると思います。それには、私が信頼できる、家庭外の先生が必要になるのです。 彼女のことを理解してくれて、受け止めてくれる先生を見つけることが習い事の内容と加えて重要なんです。 今は、よい書道の先生とピアノの先生に巡り会えました。